

傍聴者の声

紙面の都合上、要旨を抜粋いたしました。(敬称略)

6月議会傍聴者数

6月8日	3名
9日	4名
10日	2名
14日	1名
合計	10名

町民のみなさんの傍聴・感想 ありがとうございました

質問に対する答弁が十分でなかった場合は、更に質問して議論すべきではないか。今まで、町にあまり感心がなかったが退職を機会に、町の状況を知ろうと初めて傍聴させていただいた。

(塩田忠典)

傍聴席では、反響して聴きとりにくい。上部にスピーカーの設置をお願いしたい。一般質問通告書を傍聴者にも配布するのは内容が良く解るので良かった。

(有松 脩)

議会だよりを読んで

要望になります。町の広報誌と議会だよりのとじ方が異なるので、不便である。統一できないものか検討してほしい。

(有松 脩)

22万1千927円もの義援金

皆様、ありがとうございました

3月11日、午後2時46分。私たちは忘れられない、いや、忘れてはならない、大震災に遭遇しました。戦後生まれの私は空爆や関東大震災は知りません。しかし、被災地に立った時、空爆を想像してしまい、言葉が出てきませんでした。

この震災に直面し、議会全体で出来ることを話し合い、出た結論は、義援金募金活動でした。

4月24日から5月24日までの間に7回街頭に立ち、皆様からお預かりした義援金は、22万1千927円でした。この大切なご厚意は、5月31日に、日本赤十字に送金させていただきます。ご協力いただいた皆様、募金活動の場所を提供してくださった皆様、どうもありがとうございました。松伏町議会では、今後も何らかの支援を続けていきます。

松伏町議会
議長 鈴木 勝



「御協力ありがとうございました〜す」

【編集後記】

広沢 文隆

テレビ放送で、「ベクレル」や「シーベルト」がよく使われています。放射線を雨に例えると、雨の量がベクレルで、雨の中にいる人に当たる雨の量がシーベルトに相当します。

新陳代謝の盛んな組織・細胞は放射線感受性が高いため、子どもは成人より3〜10倍も放射線の影響を受けます。

国は、小中学校の屋外活動を制限する限界放射線量を年間20ミリシーベルトに決めましたが、この基準は、日本人が自然界から受ける平均年間被爆量1.5ミリシーベルトを遥かに上回る値です。

子どもたちを守ろうと各地で自主的に放射能が測られています。松伏町議会もチェック機能を高めていきます。

- 議長 鈴木 勝
- 議会広報発行特別委員会
- 委員長 莊子としかず
- 副委員長 堀越利雄
- 委員 山崎正義
- 委員 佐々木ひろ子
- 委員 高橋昭男
- 委員 広沢文隆
- 委員 飯島正雄